

最短修業年限超過者等に係る事由書

(学部学生・大学院生共通)

◆様式8は1・2を申請者が記入し、3・4に指導教員等が所見を記入し、**厳封後**、申請者本人経由で学生センターへ提出してください。

3・4を申請者が記入した事由書は無効となり、再提出が必要となりますので、ご注意ください。

◆ただし、指導教員等の判断で教員から直接学生センターへ提出することも可能です。

申請者記入欄

				年	月	日
学 生 氏 名	学 籍 番 号					
学部名・研究科名		課程・学年		入学時期		
※ 学部・研究科		<input type="checkbox"/> 学部	<input type="checkbox"/> 修士	<input type="checkbox"/> 博士	年	年度 月入学
<p>1. 最短修業年限を超過^{注1}・留年^{注2}した理由(該当する番号に☑を入れ、下欄に具体的理由を記入してください。複数選択可)</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 病気^{注3} <input type="checkbox"/> 2. 留学 <input type="checkbox"/> 3. 出産・育児 <input type="checkbox"/> 4. 国等からの派遣事業参加 <input type="checkbox"/> 5. 論文未完成</p> <p><input type="checkbox"/> 6. その他()</p> <p>注1 「最短修業年限を超過」とは、休学期間を含む在籍期間が最短修業年限を超過している場合のことを指します。</p> <p>注2 「留年」とは、進級せず同一学年に留まっている場合のことを指します。</p> <p>注3 超過理由が病気の場合は、診断書を添付してください。ただし、休学時に既に診断書を本学へ提出している場合は、診断書添付の省略を可とします。診断書の添付を省略する場合は下記の口に☑をつけてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 診断書は休学時に大学へ提出済み為、添付を省略いたします。</p> <p>最短修業年限超過・留年の理由を具体的に記入してください。</p>						
2. 研究題目(大学院生のみ。ただし、高等司法研究科を除く)						

指導教員等記入欄 **【注】申請者本人が記入した場合、提出を認めません。**

3. 修学状況・研究態度・研究活動の進捗状況等						
4. 今年度成業の見込み				最終学年の場合のみ記入		
◆卒業(修了)単位の充足状況も含めて記載してください。				今年度中の		
◆春入学者の年度末は翌年3月、秋入学者の年度末は翌年9月としてください。				学位取得見込		<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
指導教員(又はクラス担任)氏名: ⋮						

指導教員等各位

この様式は、授業料免除等申請者が選考時に休学期間を含め在籍期間が最短修業年限を超過している場合、もしくは進級せず同一学年に留まっている場合に提出する書類です。指導教員等の記入欄には、同状況にも関わらず申請者免除等に相応しい所見を具体的に記入してください。

なお、申請者本人からではなく、指導教員からの直接提出を要するときは、申請者にその旨を指示し、吹田学生センター授業料免除担当宛に送付してください。また、申請者本人からこの様式を提出させる場合は、『厳封』したものを渡してください。